

## マフムード・アッバース、ホロコーストに関する反ユダヤ主義発言問題で、パレスチナ知識人から非難され、PAの存在感ますます薄れる

— オスロ合意から30年経過、パレスチナ人はオスロ合意が産み出した疑似自治政府(PA)の存在に疑問を抱いている。

アリス・スペリ著、脇浜義明訳、田中一弘・大賀英二補訳

Intercept, 2023年9月15日

いつも影の薄いパレスチナ自治政府(PA)のマフムード・アッバース(Abbas)大統領は、先月自党ファタハ党員に対するテレビ演説でホロコーストについて反ユダヤ主義発言をしたとして世界とパレスチナ知識人から非難された<sup>1</sup>。普通アッバースの言動が国際的注目の的になることは滅多にないが、この件は彼がパレスチナ人の間に如何に支持されていないかを浮き彫りにした。パレスチナ人の約73%が彼の引退を望み、PA自体に対する幻滅も増大している。

アッバースのスポークスマンは彼の発言は反ユダヤ主義ではないと弁解している。アッバースは、30年前にホワイトハウスの庭でヤーセル・アラファトとイスラエルのイツハク・ラビン首相の歴史的な握手で始まったオスロ和平プロセスの立役者の一人である。オスロが約束したパレスチナ国家樹立は数年前にご破算になっているし、オスロ和平プロセスそのものももう死に体になっていた。

現在これまでで最も極端な極右政権がイスラエルに成立し、入植者とイスラエル軍隊の暴力が毎日パレスチナ人を迫害・殺害しているのに、PAはまったくパレスチナ人を守ることをしないどころか、反対にパレスチナ人の占領への抵抗を取り締まる専制主義的統治を強めている<sup>2</sup>。パレスチナ人はオスロの遺産であるPAの将来を疑問視している。2004年に死亡したアラファトの跡を継いだアッバースは87歳となり、彼の後を継ぐ者が不透明で<sup>3</sup>、また、PA設立時とはすっかり政治条件が変わった現在、PAがこれ以上存在するこ

---

<sup>1</sup> ナチスがユダヤ人を虐殺したのは反ユダヤ主義からではなくて、ユダヤ人が高利貸や不当財産を貯め込んでいたからであったと言った。その前にも、アッバースはドイツ訪問の際記者会見で「イスラエルはパレスチナ人にホロコーストを行っている」と言って、イスラエルから非難された。後者の発言は普通反ユダヤ主義ではないが、イスラエルと欧米の反ユダヤ主義の実用的新定義によれば、イスラエル批判はすべて反ユダヤ主義となる。

<sup>2</sup> 最近のイスラエル占領軍侵攻に対するジェニン<sup>1</sup>の抵抗の後、アッバースがジェニンを短時間訪問したとき、民衆は「帰れ、帰れ」と罵声を浴びせた。それに対しアッバースは「イスラエルへの武力抵抗がパレスチナの安全を損なう」と演説した。

<sup>3</sup> アッバースの後継候補者として噂にあがっているのは、PLO事務局長のフセイン・アル・シェイク、治安部長のファタハのマジェド・ファラジ、オリンピック委員会のジブリル・ラジューブなど。他にラマラに投資する大金持ち一家の名前や、西岸地区に投資して金儲けしている、かつてガザでCIAの後押しでハマスに対するクーデターをやって失敗したモハメド・ダーランの名前もあがっている。ダーランは何年か前にファタハから追放されたが、彼は米国と結び付きが強く、噂だがUAEとイスラエルの国交正常化でも裏で

とに疑問を抱いているパレスチナ人は多い。

パレスチナの公的な人権オンブズマンである独立人権委員会のアンマー・ドワイク (Ammar Dwaik) 事務局長は「PA の存続に関して大きな疑問符がある」と言った。私も、今年初めに西岸地区を訪問したとき、階級、世代、支持政党の違いを越えて多くのパレスチナ人がその疑問を表明したのを聞いた。

「PA 存続の意味は何だ？」と元文化大臣のエハブ・ブセイソ (Ehab Bseiso) が言った。彼は2021年にパレスチナ保安隊が PA を批判したパレスチナ人を殺害したことを非難したためにアッバースから閣僚の地位を剥奪された。「今なお入植拡大、イスラエル軍侵攻、殺害、砲撃などが続いているとき、PA の存在に何の意味があるのか。PA は、秩序維持、イスラエルの暴力を口先で非難、国際社会にアピールするだけしかしない。パレスチナ人民に与えるものは何もない。パレスチナ人民の生活現場の苦しみと怒りに応えるものを何も提供できない。」

ブセイソは、アッバース政治が長期間選挙もせず、数年前に議会も解散させて、自分の命令だけで統治していることを指摘した。彼は「パレスチナの未来の政治はアッバースがいなくなった後どうなるかにかかっている。それ自体が破綻である。もしきちんとした制度があれば、そんな不安定な問題は起きない。健全な政治システムのもとでは、大統領が引退なり死んだりしたら、他の人が大統領になる。しかし、パレスチナの政治にはそのようなことを可能にする制度も議会もなかったし、過去18年間に選挙さえ行われていない。

多くのパレスチナ人の目には PA は自分たちに「関係がない」存在と映っている。国際的ボイコット・脱投資・制裁運動 (BDS) の創始者の一人で、ガザを支配するハマースとアッバースの党であるファタハとの分裂を打開しようとして結成された第三の政党であるパレスチナ民族イニシアティブの書記長でもあるムスターファ・バルグーティ (Mustafa Barghouti) もそういう考えである。

ファタハの古参党员のアッバース・ザキ (Abbas Zaki) はもっとはっきりとそれを表現した。「PA はもう終わった。我々は自己再編しなければならない」と言った。

---

一役果たしたと言われている。しかし、有力なのはイスラエルと米国から気に入られているアル・シェイクだ。だから、アッバースの後継候補者として噂にあがっているのは、PLO 事務局長のフセイン・アル・シェイク、治安部長のファタハのマジェド・ファラジ、オリンピック委員会のジブリル・ラジューブなど。だから、アッバースがいなくなっても何も変わらない。イスラエルに代わって民衆蜂起を抑える PA の役割は変わらない。



2023年9月13日、ガザ地区のガザ市で、パレスチナとイスラエルの間で調印されたオスロ合意の30周年を記念するデモで、イスラエル軍が抗議者に対してガス爆弾を使用している。

Photo: Ali Jadallah/Anadolu Agency via Getty Images

### 占領軍の下請け業者

PAはオスロ合意の一部として、1967年以降イスラエルが不法に占領している地域 — ヨルダン川西岸地区、東エルサレム、ガザ — を管理する暫定機構として、オスロ合意の一環として設立された。和平交渉でパレスチナ主権国家の輪郭が決定されるまでの臨時的暫定的機関であった。もちろん、パレスチナ主権国家なんかは実現しなかった。それどころか、パレスチナ国家の基本的領土となるべき土地をイスラエルがどんどん奪っていった。オスロ合意では合意してから5年間の交渉で最終的解決に達して国家建設に向かうとなっていたが、その5年間に占領地に入った入植者の数は倍以上に増え、今や70万人となった<sup>4</sup>。

2国解決案が事実上実現不可能となり、それに対応してPAの存在理由もなくなってしまった。アッバースは非常に不人気であるが、後継者と噂される人物もアッバースと似たり寄ったりである。人物よりもPAの機構自体が問題であることは明らかである。

PAが失敗作であるのは、それがイスラエルの占領下で占領を補完する機構として作られたという脈絡の中で理解しなければならないと、PA批判者たちが指摘している。そもそも最初からPAには政府としての主権も権力もなかった。幾つかの一連の合意した協定ではPAは西岸地区の17% — いわゆるA地区と呼ばれる人口密集地 — の行政と治安管理

---

<sup>4</sup> 最近の発表では100万人を越えた。

を担っているが、絶えずイスラエル軍が侵入してきて監視、襲撃、殺害、破壊を行うので、事実上それらの協定は空文句にすぎなかった。一方、西岸地区の他の部分、B地区とC地区にはPAは何の統治権もなかった。

PAは地域役所的な機能 — 教育、保健、ゴミ収集、警察行為などを行っている。しかし、国際法によれば、占領地の住民の生活に対して責任を負っているのは占領国である。イスラエルは厄介な義務をPAにやらせて、責任回避しているのだ。そのくせ、治安と資源と経済に関しては、西岸地区内外での諸活動すべてを支配している。

オスロ合意はPAに非常に問題を孕んだ役割を持たせた — イスラエルとの治安協力という任務である。PAの役人はイスラエル当局と協力して多くの業務をしなければならない。とりわけ、警察業務とパレスチナ人の抵抗運動を取りしめる治安活動のため、PAは保安隊という暴力装置の保有を認められた。PA保安隊は欧米の資金で運営され、米CIAの指導・訓練を受け、イスラエル軍と協力してパレスチナ人の抵抗を弾圧している。このように占領軍の下請け業者になっていることが、軍や入植者の暴力からパレスチナ人を守らないことに加えて、PAがパレスチナ人から支持されない大きな理由である。

それと同時にPAの地域役所的機能は住民の最低限の市民生活にとって欠かせなくなっているからでもある。主として援助金で財政を切り盛りしているPAがパレスチナ経済の基本的動因となっているから、少なくとも15万人を雇用して官僚機構を膨張させているが、そこでば撒く給金（PAからの給金で生活している人々は942,000人で、その数は全住民の4分の1になる）が、それがなければ窒息するパレスチナ経済にある程度の流動性を注入している。しかし、それもイスラエルの気分次第で簡単に崩れる。イスラエルがパレスチナ人から税金や関税を徴収してPAに渡す仕組みになっているが、イスラエルは政治的圧力をかけるためや何らかの気紛れから、よく税金の移転をストップさせ、数万人のパレスチナ人が無収入状態になる。

こういう状態だから、PAを自分たちの政治的願望を代表する政府ではなくイスラエルに協力する抑圧機構と見るパレスチナ人の数がどんどん増加している。

「パレスチナ人民はPAをイスラエル軍の下請け業者と見ている」と、パレスチナの人権組織アル・ハクの事務局長のシャワン・ジャバリン（Shawan Jabarin）が言ったが、それはパレスチナ住民の共通感覚を表現したものである。「結局PAは独立国家政府でもないし、主権国家の政府でもない。我々は民族的プライドで、同じ民族を傷つけないので、そういう言い方はしたくないのだけれど、率直に言えば、PAは占領軍の下請け業者である。」



週閣議で議長を務めるイスラエルのネタニヤフ首相（2023年8月27日、エルサレムの首相官邸にて） Photo: Menahem Kahana/Pool Photo via AP

### パレスチナ自治政府の終焉

PAの事実上の首都であるラマラでは、外国の資金援助によって建てられた省庁の建物に「パレスチナ国」の記章と旗が掲げられている。その国家としての地位は、2012年の国連総会の圧倒的多数によって認められ、それがおそらくアッバースの最大の政治的成果であったが、実際にはそのような国家は存在しない。

実際、国内ではほとんど無力なPAの指導部は、国際刑事裁判所と国際司法裁判所にイスラエルの犯罪を提訴するなど、国際的なフォーラムやメカニズムに希望を託している。この戦略によってパレスチナ人への世界的な連帯を徐々に獲得する一方で、それはイスラエル政府関係者を怒らせ、彼らはこの努力を「外交テロ」と呼んだ。しかし、それはまた、パレスチナ人の運命を気まぐれな世界の潮流に委ねるものであり、彼らの日常生活には何の影響もない取り組みであり、彼らの多くは疎外感を感じている。

ファタハのベテラン構成員であるザキ（Abbas Zaki）は次のように述べている。「私たちはパレスチナ内部のことよりも海外に関心を向けてきました。私たちは国際的な場で、ある程度の承認と支援を得るために懸命に働きました。そして今、私たちは変化しており、私たちはパレスチナ内部に関心を向けつつあります。私たちには、国民を守り、人々が入植者と対決するのを助ける計画が必要です。私たちは国家の統一とパレスチナ人世帯の再編成に焦点を当てる必要があります。」

彼やその他の人々は、イスラエル政治の現在の状況を指摘した。イスラエルで最も過激な政府—3度目の内閣総理大臣であるベンジャミン・ネタニヤフ (**Benjamin Netanyahu**) が、同国の最も極右政党のいくつかと連立して率いる一が、自国の政府機関を攻撃し、内部分裂を煽っていることは、パレスチナ人にとって大きな危険であると同時に絶好の機会でもある。「過去二、三十年間のイスラエル政府との大きな違いは、一部の政府職員が密かに不正な仕事をしてきたのに対し、今回の政府では全世界の前で仕事をしているということだ。この政府は、全世界が立ち止まって考え始めなければならないような場所に私たちを連れて行くだろう。」とラマツラ前市長のムーサ・ハディド (**Mousa Hadid**) は私に語った。

イスラエルの指導者たちは過去 30 年間、PA を頼りにし、その行政的役割と安全保障協力を維持する戦略的必要性を理解してきた。しかし、イスラエルの現政権は PA の存続にほとんど関心を示していない。それどころか、イスラエル指導部は PA を軽蔑していると公言している。例えば、ベザレル・スモトリッチ (**Bezael Smotrich**) 財務相は、「PA の崩壊に向けて努力せよ」と全国民に呼びかけている。

それが実現するかどうかは別として、多くのパレスチナ人はすでに、アッバースの後だけでなく、彼らの願望をより代表する指導者や政治プロセスのある未来について考え始めている。パレスチナの人口の約 70% がオスロ合意後に生まれた者たちであり、そのためパレスチナ人の多くも反動的なイスラエル極右政治家と同様に、合意で定められたものとは異なる目標や枠組みを求めている。

「私は、パレスチナ人としての私たちの目標は、占領と戦うことだけであるべきではないと強く信じています。私たちは、パレスチナ全体におけるアパルトヘイトと人種差別のシステム全体を終わらせ、崩壊させることを求めるべきだと思います」と、パレスチナ民族イニシアティブのバルグーティ (**Barghouti**) 事務局長は述べた。「イスラエルは 2 国家解決案を潰すのだろうか？我々は一国家解決案を持つことができる。しかし、アパルトヘイトのシステムの中で奴隷として生きるつもりはない」。